

## 第2学年 算数科学習指導案

平成31年 1月24日(木) 指導者 大津町立室小学校 内田 武瑠

### 1 単元名 分数 (啓林館)

### 2 本実践の主張

#### (1) 基礎的・基本的な知識・技能の習得のための教師の手立て

本時の導入では、お菓子の箱を $1/2$ にするとどうなるかを問う。このことを通して、 $1/2$ は、「もとの大きさを同じように2つに分けた1つ分」であることを想起させる。そして、箱の中にあるお菓子を $1/2$ にする活動を設定する。班でお菓子を操作しながら $1/2$ の大きさにする方法を話し合うことで、 $1/2$ という抽象的な大きさを具体的に捉えられるようにしたい。その後は、話し合った結果を発表し、気づいたことや分かったことを問う。似た分け方をまとめたり、分ける方法を振り返ったりすることで、もとになる大きさを把握して数えたり、長さを測ったりすれば、 $1/2$ の大きさを求められることを理解させたい。

#### (2) 既習の知識・技能の活用を促す教師の手立て

本時における児童の既習事項は、 $1/2$ や $1/4$ などの意味と表し方及びテープを折って分数をつくる方法である。これまでの学習の中で、テープを折ったり、テープを簡単な分数の大きさだけ色を塗ったりするという活動を行っている。しかし、実際に児童が簡単な分数を活用するのは、生活の中で、ある大きさのものを何人かで分けるといった場面である。そして、この生活場面においては、連続量だけでなく分離量を扱うこともあるだろう。本時では、お菓子を $1/2$ にするという問題場を設定することで、常に $1/2$ の意味を考えながら活動できるようにしていきたい。

#### (3) 主体的な学習態度を引き出す教師の手立て

本時の問題場面は、児童の生活との関連が深く、この点で児童の興味・関心をひくものだと考えられる。加えて、具体的に操作をしたり、班で話し合ったりすることも、考えを持って思考することに対する手立てになるだろう。ただ、 $1/2$ の大きさをつくる活動だけになると、児童が深く思考したり、生活場面に生かしたりする態度を養うことが十分ではないと考えられる。そこで、展開の後半で、 $1/3$ の大きさをつくる活動もしくは身の回りのものを $1/2$ にする活動を行う。児童の反応をもとに後半の活動を仕組んでいく。まとめの段階では、これまでの生活場面をもう一度想起させるために、何かを分けた経験や分けることができるものについて、ふり返りを書かせ、今後の学習につなげていきたい。

### 3 単元の目標

具体物を分ける活動を通して、 $1/2$ 、 $1/3$ 、 $1/4$ など簡単な分数について理解する。

- (1) 具体物の半分、半分の半分などに関心をもち、数を用いて表そうとしている。
- (2) 操作を通して、 $1/2$ 、 $1/3$ 、 $1/4$ などの簡単な分数のつくり方を考えることができる。
- (3) 具体物を用いて、 $1/2$ 、 $1/3$ 、 $1/4$ の大きさをつくり、数で表すことができる。
- (4) 具体的な操作を通して、 $1/2$ 、 $1/3$ 、 $1/4$ の意味を実感的に理解している。

### 4 指導計画(4時間取り扱い)

時間	内容
1	いろいろな形の半分の大きさをつくることができる。
2	テープを折って半分の大きさをつくり、 $1/2$ の意味と表し方を知る。
3	テープを折って $1/3$ や $1/4$ の大きさをつくり、その意味と表し方を知る。
4(本時)	連続量や分離量を $1/2$ の大きさにする活動を通して、生活の中で $1/2$ にする方法を理解する。

## 5 本時の学習

### (1) 目標

- お菓子の $1/2$ の大きさをつくる活動を通して、生活の中にある連続量や分離量を $1/2$ の大きさにする方法を理解するとともに、日常の生活場面でも、分数の考え方を使おうとする態度を養う。

時間	学習活動	指導上の留意点☆評価	備考				
5	<p>1 問題場面をつかみ、お菓子の箱を<math>1/2</math>にする。</p> <p>おかしの入ったはこがあります。</p> <p>この中に入っているおかしを<math>1/2</math>にしましょう。</p> <p>2 めあてを設定する。</p> <p>めあて どうすれば、1はこの中のおかしを<math>1/2</math>にできるか考えよう。</p>	<p>○ 箱を開けずに、箱自体を<math>1/2</math>にすることで、分数の意味を想起させる。</p> <p>○ 他の班のおかしも見せ、多様な方法があることを予想させる。</p>	おかしの入った箱				
10	<p>3 お菓子をどのように分けるか、班で話し合う。</p> <p>C：縦で真ん中に分けると、<math>1/2</math>になります。</p> <p>C：バラバラだけど、数を数えれば分けることができそうです。</p> <p>C：9こだと<math>1/2</math>が難しいです。</p>	<p>○ お菓子を次のように用意する。</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>                 ロールケーキ (18cm)   </td> <td>                 板チョコレート (12かけら)   </td> <td>                 おもち (10こ)   </td> <td>                 クッキー (9こ)   </td> </tr> </table> <p>それぞれ2つずつ準備し、8つの班に配布する。</p>	ロールケーキ (18cm) 	板チョコレート (12かけら) 	おもち (10こ) 	クッキー (9こ) 	
ロールケーキ (18cm) 	板チョコレート (12かけら) 	おもち (10こ) 	クッキー (9こ) 				
10	<p>4 それぞれの分け方を発表し、結果を考察する。</p> <p>C：偏ったまま箱の真ん中で分けたら、一人分が違う数になります。だから、数えて分けました。</p> <p>C：12このかけらが並んでいたの、真ん中で分けました。</p> <p>C：9こだと、<math>1/2</math>にすることができません。どうすればいいですか。</p>	<p>○ 実際にお菓子の模型を操作しながら、説明をさせる。</p> <p>○ 発表した分け方を生活場面でも実際に行うか、適宜問うていく。</p> <p>○ クッキーが9この場合を最後に扱い、次の問いへとつなげる。</p>					
8	<p>5 9こを<math>1/2</math>にする場合について考える。</p> <p>C：誰かに1つもらえば、2人で分けることができます。</p> <p>C：あまったクッキー1こを2人で半分に切ると分けられます。</p> <p>C：9この<math>1/2</math>は、4こと<math>1/2</math>こになります。</p> <p>C：クッキー1この<math>1/2</math>が、<math>1/2</math>こです。</p> <p>まとめ 真ん中で分けたり、数えれたりすれば<math>1/2</math>にできる。</p>	<p>○ 9この<math>1/2</math>と、<math>1/2</math>この違いを図を用いて捉えさせるようにする。</p> <p>○ あまりが出た場合も、1つのクッキーを<math>1/2</math>にすれば、うまく分けられることに気付かせる。</p>					
7	<p>6 <math>1/3</math>にする場合について考える。</p> <p>C：8こを<math>1/3</math>にする時はどうすればいいだろう。</p>	<p>○ 児童の反応によっては、教室内で<math>1/2</math>にできそうなものを探す活動を行う。</p>					
5	<p>7 本時の学習のふり返りを書く。</p> <p>C：お家で、おやつを分ける時に使いました。</p> <p>C：学校で、給食を分ける時に、<math>1/2</math>にしたことがあります。</p>	<p>○ 生活のどこで、何を分けるときに分数を扱うことができるか、または扱っていたかについて書かせる。</p> <p>☆ 日常生活の分数を適用できる場面に気づくことができる。</p>					

